

第90号

平成28年5月25日 発行

HAKUHOKAI

虹

医療法人 伯鳳会

伯鳳会グループAMAT 熊本震災支援活動

平成28年4月14日（木）午後9時26分頃、熊本県熊本地方を震源とする震度7を観測する地震が発生、この地震は「前震」であり2日後の16日発生した地震が「本震」でした。熊本県内の建物は多数全壊・半壊しており、道路・鉄道・空港・電気・ガス・水道とライフラインも広範囲で停止していました。被害は建物崩壊だけではなく、土砂崩れ等の二次災害、エコノミークラス症候群が発生しており、時間が経つにつれて被害拡大している状況でした。また、衛生環境が悪化しており避難所ではノロウイルス感染症の拡大も問題になっていました。余震が続く中、またこの余震が前震でありこれから本震が来るかもしれないという緊張感の中、AMAT（全日本病院協会災害時医療支援活動班）として出動しました。

第1陣は、医師1名看護師2名業務調整員2名計5名編制で、4月16日（土）15：00自院救急車にて赤穂中央病院を出発しました。支援先の病院に到着したのは深夜1：30でした。仮眠をとり6：00から活動開始。まず、自院より持参した物資（水・食料・おむつ等）を仕分けし、救急車にて熊本市内の病院・介護施設等、計4箇所に物資搬入を行いました。同時に医療のニーズを確認する等、情報収集も兼ねて行いました。看護師は病院・介護施設のケア、食事介助や見守り等の業務を行い、被災病院の職員が家に帰れていないとの事で交代して夜勤業務も勤めました。医師は定期的に病院と介護施設を回診し、患者様・また職員にも安心を与えることができたのではと思います。また、ベッドやテーブルの移動等、力仕事も多くありましたのでマンパワーでは多少貢献できたのではと思います。最後に、避難所の小学校から救急要請が入り、傷病者2名を救急搬送しました。以上、出発から帰還まで3日間の任務を完了しました。



第2陣も同じく、医師1名看護師2名業務調整員2名計5名編制で、4月19日（火）7：00自院救急車にて赤穂中央病院を出発しました。支援先の病院に到着したのは17：00で、そのまま業務の引き継ぎ、ミーティング等を行い翌朝から活動を行いました。支援先の病院では次々に救急患者様や入院患者様が運ばれて来ますが、被災病院の職員は家に帰れない人や小さなお子さんがいて病院に来られない人、夜勤が出来る状況でない人などが多く、スタッフ不足により寝る暇もないような状態でした。第2陣の任務はそのような状態を支援する為の病棟業務でした。医師の指示の元、回診や投薬、食事介助等を行いました。最初の地震から約1週間が経過しており、患者様のストレスも大きくなってきていたと思いますが、衛生面も考えシーツ交換や清拭、洗髪、口腔ケアなども行い徐々に患者様にも笑顔が見られるようになっていきました。また、自院より持参した支援物資を熊本市内の物流の拠点病院へ搬入も行いました。すでに水や食料等はたくさん届いていましたが、使い捨ての器やスプーンは不足しているとの事で喜んで頂けました。発災からの経過時間によって、支援物資の内容も考える必要があると感じました。以上、出発から帰還まで4日間の任務を完了しました。

「いつ来るのかわからない。いつかは必ず来る。」災害に対して万全の準備を行い日々の訓練、個々の意識を高めながら努めていきたいと思っています。今後も、伯鳳会グループは災害時支援体制を強化して参ります。



新任医師紹介



整形外科
武田 健 医師

4月より整形外科に赴任いたしました。これまでは岡山大学病院で主に骨軟部腫瘍の患者様を治療していました。どうぞよろしくお願いいたします。



歯科口腔外科
高田 紘行 医師

4月から歯科口腔外科に赴任致しました。歯科治療やインプラント治療にも力を入れていきたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。



神経内科
真邊 泰宏 医師

4月より第1・3土曜日を担当させていただきます。役に立つ神経内科を目指しています。宜しくお願いします。



循環器科
大塚 寛昭 医師

4月から毎週月曜日の循環器科外来、心臓カテーテル検査を担当しております。岡山大学病院に所属しています。心臓のごことでご相談がありましたら何でも承ります。よろしくお願いいたします。



内科
山田 恭孝 医師

4月から毎週火曜日の内視鏡を担当させていただいております。丁寧で苦痛の少ない内視鏡（上・下部）を提供できるよう心がけます。よろしくお願い致します。



リハビリテーション科
西谷 春彦 医師

4月から毎週水曜日のリハビリテーション科を担当させていただくこととなりました。普段は川崎医科大学のリハビリを行っています。よろしくお願い致します。



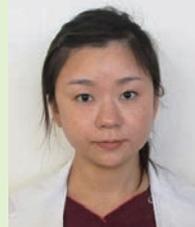
外科
河本 純一 医師

4月から外科に赴任いたしました。1年ぶりに赤穂に戻ってまいりました。地域の皆様に貢献できるように頑張ります。



耳鼻咽喉科
田中 浩喜 医師

4月から耳鼻咽喉科に赴任いたしました田中です。一生懸命頑張りますので、よろしくお願い致します。



産婦人科
坂本 綾子 医師

5月よりお世話になることになりました。5年間札幌で勤務していました。不慣れな部分も多くご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。



皮膚科
野村 隼人 医師

4月から水曜日の午前の皮膚科外来を担当させていただきます。何卒よろしくお願い致します。



内科
大森 正泰 医師

4月から金曜日の内視鏡・外来を担当させて頂いております。丁寧な診療を心がけています。よろしくお願い致します。



内科
田中 俊多 医師

4月から毎週木曜日に内視鏡検査を担当させていただいております。丁寧な検査・診療を心がけております。何卒宜しくお願い申し上げます。



放射線科
梶田 聡一郎 医師

4月より毎週月曜日午後の画像診断を担当させて頂くこととなりました。画像診断を通して皆様のお役に立てれば幸いです。よろしくお願い致します。

新しい仲間が加わりました

桜咲く季節、医療法人伯鳳会並びに社会福祉法人玄武会は、皆様のおかげをもちまして、無事に新年度を迎えることができました。

今年度の入職式は、新大阪にあるメルパルク大阪で行いました。伯鳳会グループには、研修医、言語聴覚士（OT）、理学療法士（PT）、作業療法士（ST）、歯科衛生士、放射線技師、薬剤師、看護師、事務員、栄養士、管理栄養士など、総勢139名の赤穂・明石・尼崎・東京の新入職員が、期待と不安を胸に入職式を迎えました。古城理事長は挨拶の中で、「私たち伯鳳会グループは、新たな事業展開をし成長しているグループであり、患者様のお役に立てるよう、皆で一致団結して頑張っていきましょう」と激励しました。

私たち伯鳳会グループは、医療・福祉などの健康サービスによる地域・社会への貢献に加え、雇用による貢献を今後も継続し、質を上げていけるよう成長していきたいと考えています。そのために、患者様、利用者様を第一に考え、日々の職務を全うしていき、さらなるサービス向上を目指し、職員一同、精一杯努力致します。

皆様、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。今後とも医療法人伯鳳会、社会福祉法人玄武会にどうぞご期待ください。



～無料介護相談 24時間電話対応～

介護ほっとライン

4月1日開設しました

介護のお悩みありませんか？ ケアマネジャーが親切丁寧にご相談に応じます
24時間電話相談サービスですので、日中は仕事で忙しい介護者様にも安心して
相談できる体制をとっています。

まずはお気軽にご相談ください。（通話料金はかかります）



介護相談専用電話

サンキューサンキュー♪

0791-42-3939

介護相談会のお知らせ（予約不要）

開催日時：毎月 第2火曜日（13：30～14：30）

開催場所：赤穂中央病院 パイプオルガンホール

ケアマネジャー、訪問看護師、施設スタッフが 対応いたします

事務所：伯鳳会在宅ケアセンター（担当：真殿・上荷・八尾）

我が家自慢のペット紹介コーナー

第80回目は、M.Tさん宅のラッキー君

名前：ラッキー
種類：シェパードのミックス犬
年齢：3才

野良犬の保護犬としてわが家にやって来たラッキー。ミックス犬だけどシェパードが入ってるので知的なラッキー。ドッグカフェやドッグランでも必ず、お利口さんと言われる自慢の愛犬です！



このコーナーでは皆様からの「自慢のペット」投稿をお待ちしています。どしどしご応募ください。

赤穂中央病院 (基幹型卒後臨床研修病院)

所在地 〒678-0241 赤穂市惣門町52-6
電話 0791 (45) 1111 (代表)

赤穂はくほう会病院

所在地 〒678-0239 赤穂市加里屋字新町99
電話 0791 (45) 1111 (代表)

診療案内

平日 午前9:00～午後12:30
午後3:00～午後6:00
土曜日 午前9:00～午後1:00

診療予約受付フリーダイヤル

0120-891-700

平日 午前8:00～午後7:00
土曜 午前8:00～午後2:00
日・祝日 午前9:00～午後1:00

午後の診療時間は各科により異なります。ご注意ください。

診療時間・曜日は変更となる場合があります。詳しくは待合室に掲示いたしますのでご覧ください。

不明な点は何なりと職員にお尋ね下さい。



3名の助産師が「アドバンス助産師」の認定試験に合格しました!



当院の産婦人科に所属する助産師3名が、「アドバンス助産師」の認定試験に合格しました。

まだ聞きなれない名称「アドバンス助産師」とは、平成27年から公益財団法人日本看護協会の承認が始まった制度で、分娩介助を100件以上経験し、次の5つのレベルに到達したと認定された助産師のことです。5年ごとの更新が義務づけられており、助産師の継続的に自己啓発を行い、専門的能力の維持・向上することを目的としています。

認証レベル

- 1.入院期間を通して、責任をもって妊産褥婦・新生児の助産ケアを実践できる
- 2.助産外来において、個別性を配慮したケアを自立して提供できる
- 3.助産外来において、指導的な役割を実践できる
- 4.院内助産において、自立してケアを提供できる
- 5.ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる



地域の妊産婦さんや新生児のみなさんに安全で安心な助産をしていただけるよう、これまで以上に頑張っまいますのでよろしくお願い致します。

春が来たと思えば、あっという間に雨が滴る季節がやって来ました。4月から新しく学校や会社に入った方は慣れた頃でしょうか。今の季節は夏よりも紫外線が強くなっています。日焼け止めや日傘を日頃より利用し、自分の皮膚を守るようにしていきたいものです。

